

スマートな時代に老害思考で立ち向かう田島助役？

(概況) 先日、新横営業第二である珍事に遭遇した。連休初日の7日午後、JR東日本から横浜線14:40分到着の目の不自由なお客様の9373A列車で名古屋まで12号車7D席への乗車案内の一報が入る。但し旅客は、東京から乗車のお連さまが乗車券類を所持しているため、入場券で当該列車まで乗車したいとの要望だった。

当然、東日本もそのご意向に沿うべく配慮でJR東海に伝えた。ところがこれを受けた田島助役が、とんでもない持論を展開した。既にこの時点で旅客を「いわく付きの客」と表現し社員の前に内容が伝えられた。

田島助役いわく「新幹線は切符なしでは乗車なんかできない！買わせる！」と吐息をまいた。すばらしい感覚だ！つまり乗車券類を所持していないという情報だけで、目の不自由なお客さまは不幸にも「不正乗車」と見なされたのだ。旅客性悪説も甚だしい排外思想だ。60も過ぎたこの人間の旅客の客観的事情に対する配慮のなさ、創造力のなさ、状況判断力のなさ、柔軟性のなさ、自覚のなさ、人間的キャパの無さはなんなだろうか？まるっきり老害カウボーイだ。

居合わせた他の社員らは、「はあー？」即座に廣島社員がこれに噛みついた。「時間僅少など無札対応での車内発券など日常よくあること。仮のそうだとしても、一切の歯止めがないならまだしも、車内清算や下車駅清算などいくらでも対応できる。何も問題ない！事情を考慮して乗車させるべきだ！」と反論するも、「いやダメだ！絶対買わせる！」とニベもない。社は「快適なサービスの提供やハイクオリティなサービス」などヘッタクリもない。

これには担当となるN社員もこのありがたくなる発想に愛想が尽き「なら助役やれよ！」の放り投げる始末。やや思い付きで威勢よく出たものの結局は自からが担当するハメとなった田島助役。その後、再度東日本から旅客へ配慮する事情説明が入る。すると詰所で分が悪くなった田島助役、エラく弱気な返答をしていた。

スッタモンダの挙句、田島助役による当該旅客の案内は、指令への連絡や着駅への連絡は一切秘密裡に行われることとなった。そして社員にも当該旅客案内の内容説明は何もされないまま今日に至っている。果たして、この視覚障害者が田島助役に案内（連行され）により乗車券類の二重購入を強要されたかは定かではない。



(まとめ)

このように旅客が乗車券類を所持されないで、旅行を開始される場合は健常者でも多々あることだ。そして私たちはその都度、事情を鑑みて「誤乗扱い」など臨機応変に対応せざるを得ない。(トラブルを回避するための一つ考え方)ましてや今回のケースは、乗車券類の購入ですらハンディを抱える社会的弱者の視覚障害者である。臨機応変どころか特段の配慮をもって対応することが求められる。さらに行先や乗車列車そして席番まで明らかにしていることから、問題なしと判断し、一切の性悪説を排除し、旅客対応すべきことは中学生でも判断がつくことだ。



そのとき田島助役は視覚障害者に言った「いわく付きの客だ!」「買わせる!」と

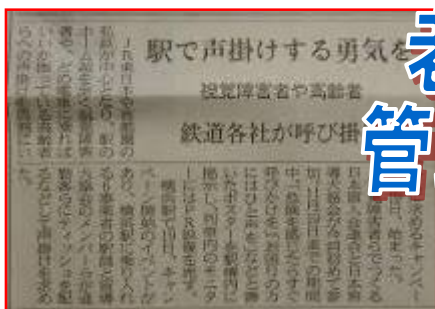
悲しい事実だが、「社会的弱者の不正乗車」と真っ先に直結するアホな管理者がこの駅には存在するということだ。視覚障害者の社会的境遇を何も理解していないばかりか、そもそもこの職場の「お身体の不自由な方の乗車のお手伝い」という立ち位置すら理解していない。まったくお寒い創造力だ。たぶん金輪際このような管理者には、お目にかかれぬことだけは確かだ。はっきり言って悪党だ。他でも?

折しも新たに導入された「スマートEX」は、チケットレスで改札を通ることができる便利なシステムである。果たして田島助役はこの「キップを持たないシステム」に順応できるのだろうか社員として心配は尽きない。

昨年の8月東京メトロ線で発生した視覚障害者の転落死亡事故以来、各鉄道会社では視覚障害者への「お声かけキャンペーン」が全国展開されている最中でこのような、差別的対応(管理者の考え)があった事実はかなり重要視すべきと考える。

また8月13日東京駅で発生した「管理者案内による目の不自由なお客様の転落事故」を想起すれば、今回ような対応は、「社会問題」に発展する可能性すらはらんでいる。

社会的弱者に対して、もっと眼差しのある鉄道会社であることを、私たちは願わずにはいられない。



老害 排外 創造力のない 管理者と職場はいらない!

(注) 管理者言動は障害者に対する偏見（法に触れる）を助長する恐れのため情報化しました。